

(昭和60年2月1日現在)
 人口 21,669 (+21)
 男 10,648 (+6)
 女 11,021 (+15)
 世帯数 6,538 (+6)

—人のうごき (1月中)—
 転入 58人 転出 52人
 出生 24人 死亡 9人



まくべつ

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



長年の技 豆の選別職人

外の寒さをよそに、幕別農協穀類調整施設の1室で、ベルトコンベヤーから流れてくる豆を選別する行木キクエさん(66歳・緑町)、下一枝さん(60歳・南町)、国安君子さん(52歳・緑町)は、10年以上の経験を持っています。この道28年の行木さんは「この仕事も昔に比べると随分近代化されました」としみじみ語ってくれました。

特集 本年度の町づくりはどう進んだか...②

産業の振興

南勢地区畑総が本年度で事業完了

農業

町の基幹産業は農業です。昨年は、春先から変動の多い天候が続き、先行きが心配されましたが、農家の方々の努力と天候にも恵まれ、豊作の秋を迎えることができました。町も農業生産の安定と生産性の高い農業を確立するため、土地基盤の整備を積極的に進めました。

道営土地改良事業

事業主体は「北海道」です。継続事業として糠内、新川など十一の地区で改良事業を行いました。四

表-1 本年度行われた道営土地改良事業 (事業主体が北海道)

注: 「左のうち町負担額」欄の()は受益農家負担分

事業名	全体計画	事業期間	昭和59年度		事業内容
			事業費	左のうち町負担額	
南勢地区畑地帯総合土地改良工事	猿別川西線ほか1路線改良・舗装 L=7,230m 明きよ5,300m 暗きよ257ha	48 59	千円 113,300	千円 19,828	舗L=2,409m W=5.5m
糠内地区	五位高台線ほか3路線改良・舗装 L=11,692m 明きよ5,300m 暗きよ380ha 区画117ha	52 62	180,000	22,666 (13,334)	改L=700m 暗きよ33.4ha 区画整理27ha
糠内第2地区	美川西線ほか4路線改良・舗装 L=22,112m 明きよ17,870m 暗きよ434ha 区画156ha 客土210ha	52 62	272,000	37,056 (17,344)	農道調査 明きよ2,438m 暗きよ54ha 区画整理10.1ha
新川地区	緑町明野線ほか6路線改良・舗装 L=10,500m 明きよ12,000m 暗きよ550ha 客土156ha	56 65	170,000	28,362 (5,638)	改L=760m 明きよ568m 暗きよ30.4ha
駒島地区	美川駒島線ほか3路線改良・舗装 L=15,061m 明きよ5,195m 暗きよ466ha 区画178ha	57 67	753,000	5,227 (9,833)	明きよ300m 暗きよ48ha
駒島東地区	中里駒島線ほか3路線改良・舗装 L=11,709m 明きよ9,832m 暗きよ498m	58 68	60,000	1,238 (10,762)	明きよ調査 暗きよ58ha
西糠内2期地区 農免農道整備事業	猿別川西線改良・舗装 L=8,579m W=5.5m	53 62	150,000	18,750	改L=580m 舗L=1,590m
明倫地区	糠内古舞線改良・舗装 L=2,673m W=5.5m	58 63	40,000	5,000	改L=260m W=5.5m
大豊第2地区 開拓地農道整備事業	明野25号線ほか1路線改良・舗装 L=4,601m W=5.5m	54 63	70,000	8,750	改L=540m 舗L=1,401m
軍岡北地区 明きよ排水事業	排水路9,439m	54 60	108,000	24,300	排水路1,240m
十勝中央地区広域 農道整備事業	千住13号線ほか1路線改良・舗装 L=4,280m W=6m 中央大橋772m	56 66	900,000	67,500	橋台2 タワー1

(注) L=道路の長さ W=道路の幅 ㊦=事業が完了

昭和五十九年度も後わずかになりました。町づくりはどう進んだか...。今月号では「産業の振興」「教育施設の整備と社会教育の充実」についてお知らせいたします。

十九年から始まった南勢地区畑総事業(猿別川西線が全線舗装、明きよ五千三百鈔、暗きよ二百五十七鈔)が本年度で完了しました。また、本年度行われた主な事業は表一のとおりです。

◇団体営農道・土地改良事業
各農協が事業主体で行われた、軍岡十二線(舗装八百二十一ト、改良千一百一ト)、駒島六線(改良千六百三十五ト)、日新線(舗装六百ト)が本年度で完了しました。

表-2 本年度行われた団体営農道・土地改良事業

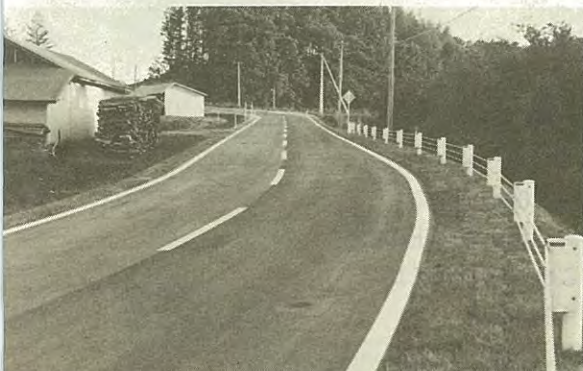
事業名	全体計画	事業主体	事業期間	昭和59年度		事業内容
				事業費	左のうち町負担額	
軍岡地区 土地改良総合整備事業	軍岡12線改良 L=1,101m 舗装 L=821m W=5.5m	幕別 農協	55~59	千円 23,600	千円 8,850	改L=497m
大豊地区	明野25号線改良・舗装 L=2,515m W=5.5m	"	55~63	38,520	14,445	舗L=665m
駒島地区	駒島6線改良 L=1,635m W=5.5m	"	55~59	30,000	11,250	改L=510m
上稲志別地区	日新線舗装 L=600m W=5.5m	札内 農協	58~59	25,840	9,690	舗L=490m
上稲志別第2地区	日新線舗装 L=2,550m W=5.5m	"	59~61	7,000	2,625	舗L=120m
相川地区 農道整備事業	相川6線改良・舗装 L=1,657m W=5.5m	町	56~63	29,000	-	改L485m
明野東地区	明野8線改良・舗装 L=2,049m W=5.5m	"	55~60	32,700	-	舗L=820m
途別地区 排水対策特別事業	排水路 668m 暗きよ 3.3ha	"	58~59	38,360	-	排水路292m 暗きよ3.3ha

(注) L=道路の長さ W=道路の幅 ㊦=事業が完了

また、町が事業主体の途別地区排特事業(排水路六百六十八ト、暗きよ三・三鈔)も完了しました。本年度行われた主な事業は、表一のとおりです。

◇高度豆作集団育成緊急対策事業
豆類の安定的な生産と技術の高度化、機械化を推進する豆作集団の育成を図るため、五十五の集団に、一千百十五万円の補助をしました。三方年計画で進められたこの事業は、本年度で終わります。

◇地域野菜生産団地育成事業



全線舗装になった猿別川西線=南勢地区畑総

町の単独事業として行っています。野菜農家(五戸以上の集団)が作業の共同化、生産物の一元集荷などを実施する場合、五百万円をお貸ししています。本年度は、幕別農協そ菜委員会ごぼう部会(野菜農家十二戸)に貸し付けをしました。貸付期間は五年以内で、無利子となっています。

◇農業後継者対策

農村青年の海外研修視察(三人一人当たり十五万円の補助)による優れた担い手の育成や、名古屋女性との交流会(一人参加)、結婚相談所の充実など、農村花嫁の確保に努めました。

◇農村総合整備モデル事業

五十六年から十カ年計画で、農村地帯の環境施設や生産基盤などの整備を進めています。本年度は、途別三号橋が完成しました。また、糠内集落排水樋門(一カ所)、水路八十七ヶ所など、一億百三十九万円で行いました。

畜産 町牧の機能充実 18haを草地改良

酪農経営は、生の計画生産や乳価の低迷など、厳しい環境にあります。このため、乳牛の産乳能力の向上や生産コストの低減に努め、飼料自給率を向

上させることが基本になります。町では、飼料基盤整備や公共育成



広島県から導入した肉用牛(黒毛和種)

牧場の機能充実を図りました。

◇飼料基盤整備事業

牧草畑の造成など、飼料自給度の向上を図るため、本年度は十三戸二十ヶ所を六百四十四万円で、草地造成しました。

◇公共育成牧場整備事業

酪農家の方々に有効的な利用をさせていただくため、本年度は草地改良十八ヶ所、作業機二台の購入など、一千五百五十二万円で町営牧場の機能充実を図りました。

◇肉用牛導入事業

道農業開発公社貸し付け牛を、十戸・四十一頭の導入をしました。(広島県産九頭、管内産三十二頭)

◇町営育成牧場で綿羊の飼育

昨年末に、繁殖用として十頭の小羊を導入しました。小羊は顔の

黒いサフォーク種で、一般的には肉専用種とされています。一頭の価格が八万円の繁殖用優良種で、牧場の観光資源、肉の販売などの利用方法を考えています。

林業 自然を守り将来の財産 町有林5haを造成

林業

恩恵を与えてくれます。

町では、自然を守り、将来の大きな財産ともなる町有林の造成などを進めました。

◇町有林造成事業

本年度は、植栽五ヶ所、除間伐三十六・八ヶ所、下草刈り延べ五十二・九ヶ所、地ごしらえ五ヶ所などを八百六十五万円でを行いました。

◇民有林振興対策補助

植栽、地ごしらえなど、民有林振興の指導的役割の大きい町森林組合へ、七十万円の助成をしました。

◇除間伐推進事業補助

この事業は町の単独事業で、民有林の振興と造林意欲の向上を図っています。本年度は、カラマツ(八十七年生)の除間伐四十ヶ所四十万円の補助をしました。

第7回産業まつり 豊作ムードで大盛況

観光開発

◇町観光協会補助

町からの補助金は、二百七十万円です。「産業まつり」「冬まつり」「冬の観光写真コンテスト」などの実施、各種事業の後援や協賛をしています。本年度行われた主なイベントは、次のとおりです。

◎サマーカーニバル⁸⁴

大流しソーメン、十ヶ所のジャンボ・キャンピング・ファイヤー、猿別川イカダ下りなどの催しが、昨年七月二十八、二十九日の両日、運動公園と猿別川一帯で、約六百人の町民が参加して行われました。

◎第七回産業まつり

爽りの秋を満喫。昨年十月七日、依田公園一帯で開かれました。秋の味覚と野菜釣り大会、コイのつかみ取りなどのユニークな企画が人気を集め、約一万人の人出でにぎわいました。

◎第三回冬まつり

二月十六、十七日の両日、止若公園(猿別川河川敷)で開かれました。大小二十一基の冰雪像が立ち

並び、多彩なアトラクションが繰り広げられ、たくさんの人出がありました。

特産品開発の後押し 「サケの薫製」が商品化

商工業

地域経済の活性化を促す「一村一品運動」。町も「特産品開発研究費補助制度」などにより、地場産品の掘り起こしによる、特産品開発のための環境づくりを進めました。また、昨年十月に民間による「特産品開発推進協議会」が発足し、わが町の名物づくりに取り組んでいます。

◇特産品開発研究活動費補助

特産品の開発や調査研究に要する経費に対して補助する制度です。「サケの薫製」で小野田美智子さん(札内西町)が補助金第一号となりました。商品化にも成功して、手づくりスモーク「あきあじ薫」として販売しています。

◇町商工会補助

商工会が行う経営改善普及事業や管理運営などに、一千三百五十九万円の補助を行っています。



地場産品を使った 手作りスモーク「あきあじ薫」



完成した札内東中校舎

学校教育

**札内東中が完成
4月から開校**

図るための環境づくりを進めまし

町内では、十六の小中学校で、三千三百二十一人の子供たちが勉強しています。子供たちに快適な環境で勉強してもらうための施設整備や、教育効果の向上を

**教育施設の整備
社会教育の充実**

た。また、札内地区に二つ目の中学校として、四月から札内東中学校が開校します。

◇札内東中学校建設事業

札内地区の人口増に伴い、札内中学校の生徒が急増し、プレハブ校舎の増築などに対応してきました。札内地区二校目の札内東中学校が、白人小学校南側(旧帯広宮林署札内苗畑事業所跡地)に完成しました。

完成した校舎は、鉄筋コンクリ

ート造り二階建て(一部三階)で、面積三千五百十八平方メートル。総工費は七億二千四百三十六万円(用地取得費は一億八百七十万円)で、ざ

ん新なデザインの白亜の建物です。校舎は中庭を囲む形で、普通教室はすべて南向きなど、明るい環境

の中で学習ができるよう配慮されています。「ゆとりある教育」を目指し、中庭には芝生を敷き詰め、生徒の交流の場に。廊下の一角には、ガラス張りのテラスに面した「語

らいのコーナー」を設けています。

なお、屋体は六十年年度に着工を予定しています。

◇白人小学校プール上屋建設事業

札内地区では、唯一の学校プールです。使用時間と期間の延長を図るため、プールの周囲に鉄骨を組んで、ビニールシートを張りました。工費二千二百万円です。七月に完成しました。

◇スクールバス購入事業

札内中学校の遠距離通学生徒のスクールバス二台(二路線Ⅱ日新線、古舞線)を一千五百七十六万円で購入しました。

◇教職員住宅建設事業

札内東中学校を含む住宅不足の解消を図るため、緑町に二棟八戸、札内青葉町に三棟二戸を八千五百二十万円(債務負担行為)で建設しました。

◇学校および教職員住宅補修工事

学校施設の補修、途別小学校前庭舗装などの環境整備や、教職員住宅の窓のアルミサッシ、網戸の取り付けなどを一千五百万円で行い

●主な学校教育振興予算

総額 6,949万円

項目	内容	見込額(千円)
教材用学校配分	教材、クラブ用消耗品費	3,375
教材備品購入費	図書、教育機器(札内東中開校分含む)	45,950
公開研究会補助	幕別小、札内北小、札内中	600
スケートリンク造成交付金	学校リンク造成費	1,425
就学援助扶助費	給食費、学用品費	18,140

ました。
◇幕別町奨学資金
経済的な理由で修学困難な生徒のために、町が独自に設けている制度です。高校、国立高等専門学校に在学の十五人へ、月額四千五百円を支給しています。
◇学校教育振興および管理用予算
教材、教具の充実を図るための教育振興費は、総額六千九百四十九万円。学校経営の管理、維持費は、総額一億一千三十四万三千元になる見込みです。(表参照)

●主な学校管理用予算

総額 1億1,034万3千円

項目	内容	見込額(千円)
管理用学校配分	管理用消耗品費、印刷費、通信費	12,174
燃料および光熱水費	燃料費、電気料、水道料	67,199
学校管理委託料	幕別小ほか3校、札内中の管理委託	21,386
管理備品購入費	学校配分、児童・生徒用机、いす	3,286
学校管理運営交付金	教職員図書費、研究費	6,298

◇スクールバス運行委託料

学校統合(五十年年度Ⅱ大豊小、西猿別小、豊岡小、新和中)による幕別小・中学校の遠距離通学児童・生徒のスクールバス(三路線Ⅱ豊岡線、大豊線、新和線)を民間業者に委託しています。委託料は一千二百九十八万円です。

◇学校共済(教職員)住宅譲渡代金

借務負担行為で建設した学校共済住宅(四十二年から五十八年までの建設分)の年賦償還は、五千六十五万円になります。



お祭りごっこで元気いっばいの園児(町立わかば幼稚園)

◇遠距離通学補助制度

小学生は片道四キロ以上、中学生は同じく六キロ以上の距離を通学する児童(二十九人)・生徒(二十七人)に補助をしています。補助額は六十八万円です。

より良い教育の推進 経済的負担の軽減

幼児教育

育を進めています。

◇私立幼稚園入園料・保育料補助
私立幼稚園に通うお子さんの父兄に対して、経済的負担の軽減を図るため、入園料五千円を七十九

人間形成の基礎を培う、幼稚園教育。

私立幕別幼稚園
町立わかば幼稚園が設置され、幼児期における心身の発達を助ける、より良い教育を進めています。

人へ。保育料(所得により補助金が異なる)は四十二人に補助しています。

◇幼稚園就園奨励費補助

私立・公立幼稚園に通うお子さんの父兄に対し、幼稚園設置者が保育料などを所得の状況に応じて減免するもので、百四十二人・六百六十九万円(見込み額)の補助をしています。

札内I遺跡の発掘 石器、土器片が出土

社会教育

社会教育は、私たちの心の中にみずみずしい潤いを持たせ、生涯を通じ人間として豊かにするため、学級・講座の開設、芸術公演、文化講演、公民館活動などを進めています。また、かけがえのない、貴重な文化財の保護にも努めました。

◇家庭教育学級

子供さんの両親を対象に開設しています。幕別小、札内中など九学級で二百八十人が、家庭・親の役割や、子供たちに理解され受け止められるための親の知識や態度を勉強しています。

◇婦人学級

主婦が広い視野を持って、家庭づくりや地域で活躍していただくため、一般教養、趣味などの学習をしています。開設学級は二学級(幕別地区I二十九人、札内地区II

八十八人)で、年間の学習時間は二十四時間になります。

◇高齢者学級(しらかば大学)

お年寄りが「生きがい」のある生活を送るための学習の場です。陶



札内I遺跡の発掘調査

芸部、手芸部、園芸部などで、十七人が陶器(花瓶、湯飲み)づくりや花づくりを楽しんでいます。

◇移動公民館講座

料理講習会、講演会など各地区公民館(六館)で、年三回の講座を開設しています。

◇埋蔵文化財発掘調査

札内高台線(池田西高移転新築現場横)の周囲に広がっている「札内I遺跡」の発掘調査が、昨年六月から約二カ月間で終わりました。遺跡は、縄文時代(四、五千年前)のものとして推定され、土器片約三千五百点、石器六千点が出土しました。

発掘調査費は、九百六十万円になりました。

◇勤労青年国内研修補助

たくましい実践力のある青年を育てるため道外に派遣しています。本年度は、七人(男性五人、女性二人)が、昨年十一月十五日から二十三日まで、宮崎県東郷町や「わたぼうしコンサート」で有名な奈良県たんぼの家を訪れ、地元

の青年たちと交流を深めてきています。一人当たりの研修補助は六万円です。

◇芸術公演・文化講演

札幌交響楽団の金管部門の奏者を招いてのブラスアンサンブル演奏会(十一月三日)や、将棋の内藤国雄九段を招いての文化講演(同四日)などを開催しました。

◇学童保育所

何かの理由で保護を受けられない小学生・二年生をお預りしています。本年度から、四カ所目のやまびこ学童保育所(札内新北町近隣センター内)が開設されています。

◇町民のスポーツ熱は、年々高まっています。

農業者トレセンを中心に、日常生活の中で身近にスポーツを親しめる環境づくりや、スポーツ団体の育成、新しいスポーツ「グラウンド・ゴルフ

新しいスポーツ グラウンド・ゴルフ導入

社会体育

しいスポーツ「グラウンド・ゴルフ」の普及などに努めました。

「グラウンド・ゴルフ場完成
まったく新しいスポーツ「グラウンド・ゴルフ」の専用コースが運動公園内に造成されました。造成されたコースは十四ホール。ルールはゴルフと同じで、いかに少ない打数でコースを回るか競います。

昨年九月には、同好会が誕生し、十一月五日に四十五人の選手が専用コースでプレーを楽しむ愛好者



専用コースでプレーを楽しむ愛好者

◇学校開放事業(スポーツ開放)

「ママさんバレーボール」や「柔道」や「バドミントン」など、多くの町民が気軽にスポーツを楽しめるよう、白人小、糠内小など六校の体育館を開放しています。

◇スポーツ傷害見舞金

スポーツ行事の参加者が、けがをした場合に見舞金(一日五百円)を支給しています。十二月末現在で、四人の方へ二万七千五百円を支給しました。(終わり)



開会式では、メインステージで雪像製作者への表彰がありました。製作期間中、吹雪の日もあり、大変だったようです

お~っと! ポカポカ陽気 工~クな催しに歓声

第3回冬まつりが2月16、17日の両日、止若公園で開かれ、平年気温をはるかに上回る陽気に、多くの町民が繰り出しました。

会場には、町民が職場・団体ごとに作製した20あまりの雪像が立ち並びました。アトラクションでは、ウルトラクイズや綱引き大会に人気が集まり、歓声が広がっていました。

第3回 まくべつ冬まつり



よしお
相川の坂口羊男です。
ウルトラクイズで、まさか優勝するとは思いませんでしたのでビックリ!
副賞のハオアで幕別温泉1泊招待は妻と行きます。

「わー、もうダメー。雪の上では足に力が入らず、ツルツル。あとは引かれっぱなし。観客は大爆笑



「ヨーイ、ドン」。ゴールを目指して必死に走るわが子を写そうと、お父さんたちは必死にカメラを向けていました

「牛乳はいかがですか」と声を掛けていたのは青年団体連絡協議会のメンバー。この牛乳は搾り立ての自家製で、かわいい子牛と一緒にPR



前夜祭では、カラオケ大会が行われ、のどに自慢の歌い手が次々登場

駒畠中学校が閉校

三月末で糠内中に統合

駒畠中学校(和田和三校長)が、三月三十一日で糠内中学校に統合されます。

町教育委員会は、五十六年六月に、南幕別地区の中学校を適正規模の一枚にまとめるため、駒畠地区住民へ、糠内中学校への統合を要請しました。これに応じ、駒畠地域に「駒畠の教育を考える会」が結成され、同会を窓口として、町教育委員会と話し合いを続けてきました。

しかし、地元住民の意見を一本にまとめることが難しく、この三年間、統合は見送られてきました。だが、昨年十二月十五日、双



糠内中へ統合が決まった駒畠中

方が、スクールバス運行に対応する除雪体制の確立・糠内中学校にテニスコートの造成・駒畠小学校の早期新築(六十年度予定)など、十項目の統合に伴う条件整備で、合意に達しました。

駒畠中学校は、昭和二十二年の

サケ学習でカナダと交流

サケのふ化、稚魚飼育など、サケ学習に取り組んでいる幕別小、相川小、札内北小、札内南小、途別小、糠内中の六校が、カナダ・サケ学習交流提携校に指定されました。

これは、北海道教育委員会と北方圏センターが、「北海道・カナダ・サケ学習交流計画」に基づき行われていきます。今回は、全道で四十二校、十勝管内では九校が指定されました。

交流内容は、各校の校長が手紙で提携の意志を確認し合い、子供たちが手紙、作文、写真、工作などを交換し、交流を続ける中でサケ資源保護の活動や理解を深め、さらに、国際的

新学制施行と同時に開校。幕別市街から二十八キロの農村地帯に位置し、三十七、八年には、八十人以上の生徒が在籍していました。年々生徒が減少し、現在は十人の小規模校。五十八年春までの卒業生は、延べ五百八人に上り、優秀なスケート選手を数多く送り出し、五十七年度には、道教委の体カづくり優秀校として、表彰を受けています。三月十四日には、最後の四人が巣立っていき、閉校式も合わせて行われます。



サケの飼育をする相川小理科クラブの児童

な視野も身に着けてもらいます。指定された相手校は、次のとおりです。

- ▽幕別小一スノードン小学校
- ▽相川小一バルモラル・スクール
- ▽札内北小一ジョン・トッド小学校
- ▽札内南小一エリック・ラントン小学校
- ▽途別小一聖ジョアキム小学校
- ▽糠内中一コンラッド通り小学校

健康

相談

質問

現在三カ月になる子供がいます。来月、仙台の親類の家へ行くことになりましたが、連れていくのが不安です。(あかしや町・母親)

お答え

生後一カ月たつと、ある程度の適応力がつくので、徐々に外へ連れ出すことができます。三カ月たつころには、首も据わっていると思われしますので、車などの乗り物も良いでしょう。そこで困るのは、何を利用するかでしょう。列車ですと座席を取っておけば、赤ちゃんを横に寝かせたりできますし、お母さんも楽になります。でも、赤ちゃんが泣いたりぐずったりした時は、周りの人に迷惑を掛けることになり

ます。自動車ですと好きな時に出発でき、なにかと融通が利きますが、どうしても長時間ですと無理になってきます。どの乗り物も一長一短ですが、遠距離の場合は飛行機が良いと思います。無理のない日程を組むよ

う、ご両親で相談してください。赤ちゃんを連れて出かけるとき、まず心配なのは授乳でしょう。母乳は問題ありませんが、他に必ず湯冷ましを用意しましょう。ミルクの場合は、消毒したほ乳瓶に一回分の量を入れ、あとはお湯を入れるだけにしたものを持っていきます。特に列車では、すぎが十分にできませんから、一本のほ乳瓶で間に合やすのはやめます。また、ミルクを溶かすお湯は、持っていった方が良いでしょうが、飛行機ではスチューデスが調乳してくれます。車ですと、途中のドライブインなどでお湯をもらうこともできます。最初から調乳して、ポットなどに入れて持ち歩くのは、腐りやすいのでやめましょう。次におむつですが、旅行の間は紙おむつか、使ったあと捨ててもよい古いおむつが便利です。ただ、捨てる時にはビニール袋に入れ、捨てる場所も考えるなど、周りの人に迷惑を掛けないように。旅行中は思わぬことが起こります。ぬれたタオルやチリ紙、ビニール袋、着替えなど、少し余分に持っていきます。また、いつでも病院にかかれるよう、保険証や母子手帳も忘れずに。長旅は、赤ちゃんもお母さんも疲れますので、余裕を持った日程にし、お父さんも一緒にいくと、なにかと心強いでしょう。

(町保健婦)



まちの ニュース



▶ 棚牧場で三つ子の牛誕生

新川の棚牧場(棚栄正さん経営)で、雄一頭、雌二頭の三つ子の牛が生まれ、丑年にちなんでめでたい出来事と、棚さん夫婦を喜ばせています。妻の礼子さんは「一度に三頭も生まれるとは……」と驚いた様子でした。



▶ わが家の自慢料理を披露

幕別農協婦人部主催の「第1回ふるさと料理講習会」が1月29日、50人が参加して幕別農協で行われました。自家生産物の野菜や穀物を原料にしたわが家自慢の料理30品が、テーブルの上にずらりと並べられ、作り方をそれぞれアドバイスしました。



▲ 隠し芸で愛の手を

2月24日、町民有志による隠し芸チャリティーショーが町民会館で行われました。約400人がカラオケ、寸劇、踊りなどを楽しみました。この催しは幕別町歌謡連合会(代表・橋本喜作さん)が主催。益金は社会福祉協議会へ寄付されました。



◆ 農業者会議

◀ 西幕別青年会が知事表彰
全道農業者会議が二月五日、六日の両日、札幌の自治会館で行われました。六日の閉会式の席上、西幕別青年会乳牛プロジェクトチームが、全道模範農村青少年農業研究集団として知事表彰を受けました。乳牛研究が高く評価され、また、地道な地域への奉仕活動も認められたものです。

幕別風土記 二十

新田の土地を、二十年の間小作をしながら開墾したが、昭和二十年に農地解放で自分の土地になりました。



中村 ちょじろうさん(83歳)
明倫38

私は、明治三十五年二月五日に、父・定吉、母・きえの長男として、秋田県横手市で生まれました。

十六歳の時(大正六年)に父母と弟二人の五人で北海道へ来て、上達別(現帯広市桜木町)へ入植しましたね。大正九年に水田をやるため、古舞へ入って耕作を始めたんだが、十一年の大水害ですべてを流され、古舞の東高台の加藤牧場で小作をしました。

昭和に入ってすぐに、茂発谷で畑作をし、その傍ら新田帯草製造所の土地だった明倫の現在地を、通いながら小作として開墾を始めたんだ。四年の春に、わらぶきの堀っ立て小屋を作って、そこへ移って本格的に耕作を始めたが、高台だったので、当時は水に苦労したな。夏は近くに

小さな沼があったからいいが、冬になると馬そりで、二キロほど離れた沼の水を割って、水をくみ上げて運んだもんです。畑を耕すのは、道産子という小さな馬で、プラオは三頭引きであつた。

食べ物は、ふき、わらび、ぜんまいなどの山菜はなんでも食べたし、マスやウグイなどの川魚も食べたな。主食は、麦やいなきびご飯にビルマ豆を入れたものが普通だった。

昭和二十年の農地解放まで小作を続けたが、家族総出で働いても、年貢を収めて、あとは食うだけの生活であつたな。だから冬になると、まき作りや炭焼きもよくやりました。鉄砲打ちが好きだったので、山うさぎなどはよく捕えたもんだ。

娯楽といえば、芝居を見たことと、相撲を取ったことで、芝居は、亀井さんの馬小屋の二階に帯広の秋田屋が来たもんです。今考えれば、昔は夢物語で、想像もつかないくらい、いい世の中になったです。(終わり)

みんなの声

調整区域に住宅を建築したいが

私は、市街化調整区域に90坪(297㎡)ほどの土地を購入しておりましたが、資金的にもめどが着きましたので、住宅を建築したいと思っています。住宅を建築できるでしょうか。(札内あかしや町・58歳)

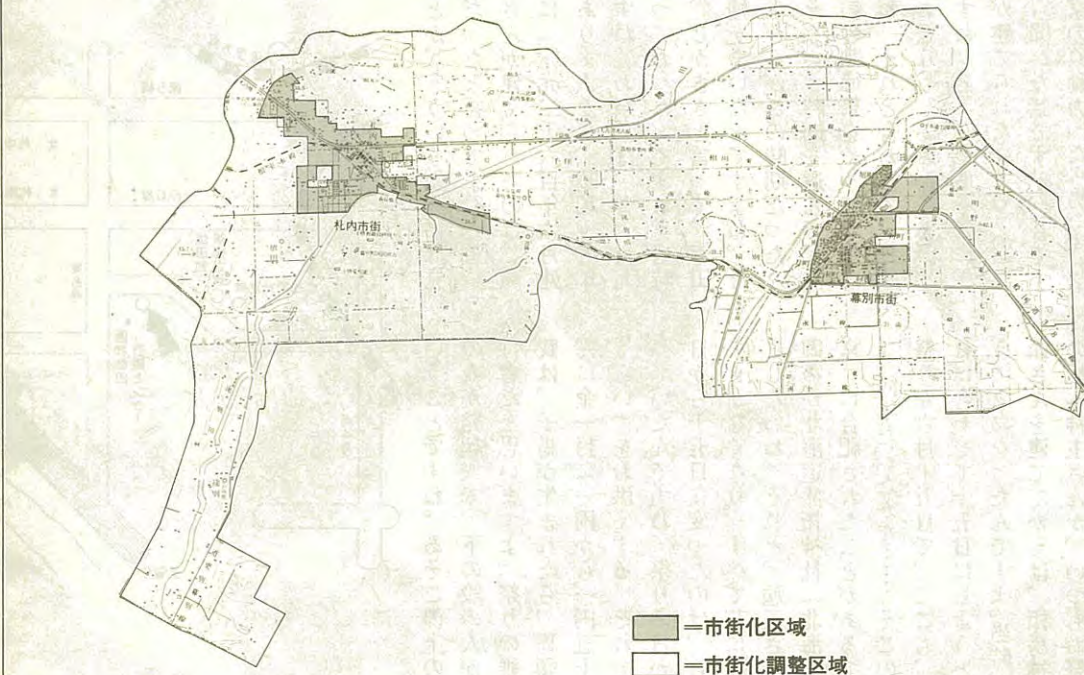
——市街化調整区域には、原則として住宅は建築できません。ただし、例外として農林漁業に従事している方で、営農林漁証明書(農業委員会が発行します)があれば建てるができます。また、昭和45年12月28日以前に農地以外の土地を持っておられる方で、現在自分の住宅を持っていない方については、知事の許可を受け、開発行為により住宅を建築することができます。

つまり都市計画法によって都市計画(秩序ある土地利用、道路・公園などの整備、土地区画整理事業に関する計画)が定められると、土地利用に制限が課せられます。

※市街化調域と市街化調整区域

市街化区域と市街化調整区域の区域区分は、人口、産業の都市への急激な集中に伴う、都市周辺の無秩序な市街化を防止しようとする都市計画です。市街化区域は、既に市街地を形成している区域、および、おおむね10年以内に優先的に市街化を図るべき区域で、開発行為(主として建築物の建築、または特定工作物建設の用に供する目的で行う土地の区画形質の変更)をしようとするときは1,000㎡未満のものを除き許可が必要です。市街化調整区域は、市街化を抑制する区域で、農林業に必要な建築物や住居など以外は認められず、開発許可を受けていない土地での建築行為も禁止されています。現在、帯広圏(幕別町、帯広市、芽室町、音更町)都市計画区域で定められている「市街化区域および調整区域」の範囲は、下の図のとおりです。なお、詳しいことは都市計画課計画係☎54-2111 内線466へお尋ねください。

市街化区域および市街化調整区域



近所づき合いを大切にしながら、早く町に慣れたいです。

ふだんは、家の呉服の外販を手伝ったり、趣味でクッション作りなどをしています。幕別には温水プールがあるので、今年は泳ぎに行こうと思っています。

私にとって、幕別は初めての土地ですが、友達からいい所だと話を聞いていました。札幌に比べると、一軒一軒の土地が広々としていて、日当たりもいいです。特に、ゴミステーションが整っていて、きれいな町だと思いました。

昨年九月、夫と結婚のため、こちらへ来ました。札幌生まれの札幌育ちで、高校卒業後は、会社で事務の仕事をしていました。札幌は、地下鉄など交通の便がいいので、住みやすい街でした。ただ、冬は雪が多く、雪解けのシーズンには汚かったですね。



この人の 金野さと子さん (29歳) 旭町24

新町民登場

徳原地の 仔馬の内祝

第59回
幕別
もつぱり

路傍の神——
開拓と信仰 ②
依 田

札内市街から途別街道に入り、依田会館の前「幕別町水田発祥之碑」の所で右折し、西高台の急斜面を一気に駆け上がると、西和依田近隣センターの前、三本の木に守られるようにして馬頭さんが建っていた。近づいてよく見ると、礎石

の上の二段に重ねられた石に、人名が刻まれていた。上段には十二人の名前が、下段には賛助員という刻みとともに、二十七人の名前が見られた。そして、後ろには「紀元二千六百年六月建立」と記されていた。

小鳥のさえずりに、ふと見上げると、そこには美しい景色が広がっていた。後方に目を転じると、高い丘の斜面に「徳原地」の碑と、昭和五十九年十一月に建てられた「依田勉三頌徳之碑」が見えた。ここ依田地区は、かつて晩成社途別農



近隣センター前に建っている馬頭さん

場と呼ばれた所である。明治十六年、依田勉三率いる晩成社移民団は、伊豆から帯広村に入植して帯広農場を開き、同十九年には当縁村(大樹町生花苗晩成地区)に入植、当縁牧場を開いている。その後、売買川沿いの原野(帯広市鉄南地区

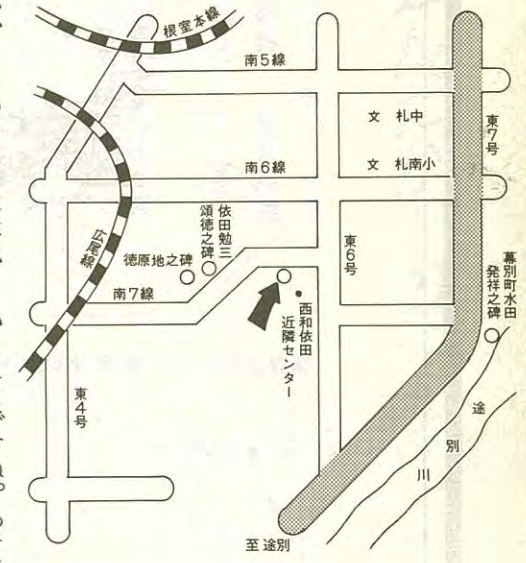
一帯)の払い下げを受け、売買農地を開き、この農場の一部が十勝監獄の実習地として買上げられると、かねてから目をつけていた別奴村(幕別町)途別の土地百五十町歩を、その代替地として払い下

げてもらい、水田造成に着手している。これが明治三十九年のことである。この地に至り、大正九年に念願の米作りが成功しているのである。

土地の古老である九本武一さんに、入植当時のこと、馬頭さんのことを尋ねてみた。
「うちの父親種七は、大正五年の春に入植しているはずですよ。おやじの親は、湧洞(豊頃町)に入植していたんですよ。うちのおやじは長男なんだけど、米を食べたいばっかりにここへ来たんだと、達者なころよく言っていました。だけど、ヨシ原でひどかったゆえに、畑

になるとか、そういうふうには見えん所だったと言っていましたよ。馬頭さんが建てられたのは、馬頭さんに「紀元二千六百年六月建立」とありますから、昭和十五年六月ですね。お祭りは、昔六月九日にやっておったんですね。当時水田は、じかまきと言って、水田に直接種をまいたんですね。そのまき上がりがこの時期だったんです。そういう時期を選んで、依田三翁の頌徳祭をやっていたんですよ。それと合わせて、馬頭さんのお祭りもおったということですね。どうしてあそこ

に馬頭さんが建てられたかというのは、先代から聞いた話ですが、昔ですから農家の原動力つたら馬ですね。その馬が泥炭地でひどくけがをする。死なす。非常に災難があったらしいんです。そんなことで、馬頭さんをお祭りして、馬を守ってもらおうじゃないかということ、皆さんが馬頭さんを建てられたと



どうしてあそこ馬頭さんが建てられたかというのは、先代から聞いた話ですが、昔ですから農家の原動力つたら馬ですね。その馬が泥炭地でひどくけがをする。死なす。非常に災難があったらしいんです。そんなことで、馬頭さんをお祭りして、馬を守ってもらおうじゃないかということ、皆さんが馬頭さんを建てられたと

いうことですね。あそこ上の段の人が発起人で、下の段の人が寄付者だと思えますよ。祭りの維持費は、子馬が生まれたら、馬頭さんに金一封(一円から一円五十銭くらい)をお供えする。それで賄っていたんですね。祭りの日が九日から十五日に変わったのは、じかまきがなくなり、すべて苗になりましたわね。それと、勉三さんの御霊が北海道開拓神社(北海道神宮)に合祀されたことがあるんですよ。何年だったかな……。そこのお祭りが六月十五日で、これも、それに合わせて十五日にしようということになったんですよ。当時、馬頭さんを建ててからは、相馬神社の松本神主さんが、いつもお祭りには来てくれましたね。その人が亡くなってからは、今の札内神社の神主さんに来てもらっていますよ。私が馬頭さんについて知っていることしたら、だいたいこれくらいのことですね」

- 依田勉三とともに苦勞した人たちが建てたこの馬頭さんは、徳原地の森を背に、地区の人々を見守るように建っている。
- (取材・松下 倫子(ふるとと)と鐘スタッフ)
(終わり)
- 「寄付ありがとうございます」
- 町へ……
 - ▽ライオンズクラブから図書購入へと教育委員会に十万円
 - 町社会福祉協議会へ……
 - ▽菊地ケサヨさん(相川)から三万円
 - ▽松田外吉さん(古舞)から車いす二台
 - ▽近石カネさん(寿町)から二万円
 - ▽一条豊さん(弘和)から三万円
 - 老人クラブへ……
 - ▽宮本昭一さん(美川)から美川老人クラブへ二万円
 - ▽明野老人クラブへ小林繁さん(大豊)から二万円
 - ▽高橋花江さん(明野)から一万円
 - ▽加藤照正さん(明野)から五千元
 - ▽菊地ケサヨさん(相川)から相川南老人クラブへ二万円
 - ▽大和講幕別支部から中央老人クラブへ二万円
 - ▽旭町老人クラブへ一万円
 - ▽宝町老人クラブへ一万円
 - ▽軍岡老人クラブへ二万円
 - ▽大和講真隆寺支部から中央老人クラブへ一万円
 - ▽相川老人クラブへ漆原繁さん(相川)から二万円
 - ▽矢竹喜一郎さん(相川)から二千元
 - その他……
 - ▽近石カネさん(寿町)からしばば大学へ二万円